

本県と台湾・金門県のボイスカウト

空の翼若者の絆紡ぐ

定期チャーター便契機

福島と台湾を結ぶ空の翼が次世代の日台の絆を紡ぐ。ボイスカウト福島連盟は台湾の金門県(金門島)のボイスカウトと交流に乗り出した。福島空港—台湾間定期チャーター便を機に、台湾側から申し出を受けたのがきっかけだ。高校生世代などがオンラインで顔を合わせ、お互いの名物や風土に理解を深めた。関係者は空路でつながる利点を生かし、相互訪問などを目指している。

「福島を訪ねるとしたらクセスし、台湾の同年代かいつごろがいいですか?」うの問い合わせに応じた。金門県からは温暖な気候など

ティーを楽しめる12月ごろが紹介された。

がお薦めです」「8月には英語による自己紹介で始まりますよ」。ボイスカウト分統いた須賀川市の事務に励む県内と金門県の若者が16日、オンライン会議で地域の魅力を語り合った。

福島連盟からは須賀川第1団と福島第1団、会津若松第1団、郡山第2団の高校生・大学生団員7人がそれ各自的事務所などからア

相互訪問へ交流スタート



オンライン会議に臨む目黒さん(中央)ら

届いた申し出だ。同連盟によると、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故からの復興に歩む東北地方への関心に、2023(令和5)年1月の福島空港—台湾間の定期チャーター便就航が重なり、民間交流を持続させられたという。

福島連盟には海外のボランティアが所属し、福島空港の関係者によると、福島—台湾チャーターバスの交流を育んできた。たゞ、福島空港の関係者によると、福島—台湾チャーター便の利用者は中高年が多い傾向があり、さらなる利活用に向けて若年層の利用促進も課題の一つという。

台湾はボイスカウト活動が盛んな地域で約5万人が所属し、金門県の団員も約920人に上る。関係者はオンラインで意見交換を重ね、将来的には互訪問や合同プログラムの開催などを見据えている。安田副理事長は「コミュニケーションなどの課題を解消し、ボイスカウト界のつながりを台湾と福島の関係性の発展につなげたい」と意気込んでいる。

月下旬には事業を担当する安田喜好副理事長が訪台し、現地の関係者と面会。定期的な交流の場を設けていく方向で一致した。2月には事業を担当する安田喜好副理事長が訪台し、現地の関係者と面会。定期的な交流の場を設けていく方向で一致した。

イスカウトと定期交流した実績はないが、「国際社会で活躍できる人材を育てる好機」と判断し、金門県側と打ち合わせを始めた。2

